

令和7年度薩摩中央高等学校におけるCSポートフォリオ診断結果について

1 回答者

- (1) 学校運営協議会委員 7人
- (2) 教職員 4人
- (3) 生徒 116人

2 回答期限

令和8年2月27日

3 CSポートフォリオの内容

CSポートフォリオは、CSに関わる各主体へのアンケートによって測定した結果に基づいて診断する自己診断ツール。児童・生徒の資質・能力等の「CSの成果（目標）」の測定に加え、その要因となる「学校運営協議会（組織）の状態」や「関係者の意識・活動」も定量的に可視化することができ、CSの運営状態やCSの生み出す成果を、今後の学校運営や協働活動の改善に向けた「次なる一手」の検討につなげることができる。

● CSポートフォリオアンケート項目【3主体×3要素で構成】

| | 協議会委員 | 教職員 | 児童・生徒 |
|----------|--|--|---|
| CSの効果 | | <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上 ・生徒指導, 生活指導の負担の減少 ・保護者, 地域住民への信頼の高まり ・保護者対応の負担の減少 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供が享受する機会の変化 ・資質, 能力の向上 ・地域への愛着, 貢献意識の向上 |
| 関係者の意識活動 | | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会の意義の理解 ・地域住民, 保護者との交流 ・授業, 生徒指導・生活指導における地域, 保護者との連携 | |
| 協議会運営の状態 | <ul style="list-style-type: none"> ・自律性 ・熟議度 ・共有性 | <ul style="list-style-type: none"> ・持続性 ・実効性 ・対等性 | |

● 評価結果を読み解く視点

- ・ 全ての視点で改善・100%を目指すのではなく、注目したい指標を選択する。
- ・ 実際の取組や現場の実感と結び付けて解釈する。
- ・ 組織運営や関係者の意識・活動の状態との繋がりや関連性を捉える。

4 結果

(1) 学校運営協議会委員

6項目中、5項目が昨年度を上回った。特に、**持続性**（教職員の異動に関わらず、持続的に議論ができる体制になっているか）、**熟議度**（議題の確認や承認だけではなく、時に見直しを行うなど、深い議論ができてきているか）は大きく上昇した。

共有性（周知・共有されているか）は、昨年度を下回った。

【アンケート結果】

持続性 昨年度 82.1% → 今年度 96.4%（↑14.3%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|---------------------------------|-----|-------|--------|
| 学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている | ↑ | 71.4% | 100.0% |
| 校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある | ↑ | 85.7% | 100.0% |

熟議度 昨年度 71.4% → 今年度 91.4%（↑20.0%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|----------------------------------|-----|-------|--------|
| 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある | ↑ | 71.4% | 100.0% |
| 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある | ↑ | 57.1% | 85.7% |

(2) 教職員

「**保護者・地域住民への信頼の高まり**」は、昨年度を上回った。

全体的に昨年度と同等もしくは下回る結果となった。

【アンケート結果】

保護者・地域住民への信頼の高まり 昨年度 68.8% → 今年度 75.0%（↑6.2%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|---------------------------------|-----|-------|-------|
| 保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解してくれている | ↑ | 68.8% | 75.0% |
| 保護者や地域の方は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる | ↑ | 68.8% | 75.0% |

協議会の意義の理解 昨年度 65.0% → 今年度 50.0%（↓15.0%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|---------------------------------|-----|-------|-------|
| 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している | ↓ | 81.3% | 50.0% |
| 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある | ↓ | 25.0% | 0.0% |

(3) 生徒

おおむね昨年度と同等の結果となった。

【アンケート結果】

地域への愛着の高まり 昨年度 52.7% → 今年度 50.2%（↓2.5%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|-----------------------------|-----|-------|-------|
| さつま町の歴史や行事、さつま町で起きた問題に興味がある | ↑ | 32.0% | 43.1% |
| 将来もさつま町に関わりたい | ↓ | 37.4% | 27.6% |

地域貢献意識の高まり 昨年度 45.6% → 今年度 46.1%（↑0.5%）

| 内容 | 前年比 | 昨年度 | 今年度 |
|----------------------------|-----|-------|-------|
| 自分もさつま町の人に役に立ちたい | ↓ | 59.2% | 54.3% |
| さつま町のために自分には何ができるか考えることがある | ↑ | 32.0% | 37.9% |

(4) 委員からの意見等

【質問】 学校運営協議会に関して、御意見等ありましたら記入してください。

【意見】

- 薩摩中央高校の協議会に参画させていただきましたが、まず、校長先生、教頭先生のお二人を中心に学校を良くしていこうとする想い、行動が素晴らしく、他が模範とすべき「モデル校」としての役割を十分に担っていることを申し上げたいと思います。学校と地域が共生協働していくことを、綺麗な言葉だけではなく、汗をかき実践していることが人を動かし、学校に協力していきたいと考える人材の確保につながると思います。
- 「地域維持を起点とする町」と「生徒個の育成（幸せ）に努めるべき学校」とでは、時折方向性の相違がでてくると思います。また「地域の魅力（非経済価値）」と「生徒の生き抜く力（主に経済価値）」も同じく方向性の相違がでてくると思います（特に生徒の親）。そのため、議論のベースとなる「町と学校との共有価値（目的）」を議論していくことも必要と感じました。
- 今回、運営委員として参加させていただいたことは、地方創生とはなにかを考えるうえでも非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- 子供達のためにいろいろな方々が関わっている事と、子供達が大事にされている事、本当に感謝しています。けれども知らない方が多いと思うので、わかりやすく保護者の方々へもお知らせし、委員でない方からも協力をもらえたら温かい雰囲気为学校になっていくのではないのか？20年後に繋がるのではないかな？と思います。
- 学校運営への効果的な発案もできず恐縮に思っています。逆に自分の職場に持ち帰り応用すべき点に気付かされるなど勉強になりました。
- 協議会の取り組みを、生徒や保護者、教員、地域住民にしっかりと共有していただき、学校に関心を持ってくださる方、支援者が増えることを期待します。
- もし可能であれば、運営がうまくいっている学校の情報をもっと知りたいと思います。どういう熟議がなされ、どう学校や地域が変わったのか、そのために例えば年何回集まったとかこういうことをしたとか、そういう具体的な例を知りたく思います。
- 学校運営協議会ではビジョン策定のための熟議を重ねて来ましたので、まだ具体的活動に関する回答はできませんでした。生徒との交流や多分野の方々との意見交換の場もあり大変良い形で運営されていると思います。

5 令和8年度に向けて

(1) 学校運営協議会委員

今年度、学校運営協議会を5回開催し、熟議を重ねた。グランドデザインや魅力化について議論を重ねたことで、学校と地域が相互に協働していく体制がさらに進んだことが、診断結果にも表れていた。

今後、具体的な教育活動や学校の課題について協議し、学校と地域が一体となった活動の推進が重要である。

【次年度に向けた具体的取組】

- ・ より具体的なテーマに沿った熟議の実施

(2) 教職員

学校運営協議会を通じた地域との連携・協働について昨年度を下回る結果となった。しかし、「保護者や地域の人々が、学校の課題や問題点を理解してくれている」「保護者や地域からは、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる」といった項目は昨年度を上回っており、地域住民・保護者との直接の連携について減少したものの、学校と地域の信頼関係はこれまで以上に構築されている。

今後、教職員の意見を学校運営協議会での協議に反映させるため、「地域及び学校運営協議会に求めること」等について教職員への意見聴取や、教職員と委員との意見交換の実施等、教職員が関わる体制作りが重要である。

【次年度に向けた具体的取組】

- ・ 教職員による学校運営協議会に関する意見交換の実施。
- ・ 委員と、教職員・生徒との熟議の実施。

(3) 生徒

地域への愛着や地域貢献意識について昨年度と同程度であったが、「地域の歴史や行事、地域で起きた問題に興味がある」、「地域のために自分には何ができるかを考えることがある」と回答した生徒は昨年度より増加する等、地域への当事者意識は高まっている。

今後、生徒が委員と意見を交わす場を設け、具体的な活動を実施する等、地域と連携した教育活動について企画の段階から取り組み、達成感や自己肯定感の育成が重要である。

【次年度に向けた具体的な取組】

- ・ 委員と、教職員・生徒との熟議の実施。
- ・ 熟議をふまえた教育活動の展開

まとめ

薩摩中央高等学校におけるコミュニティ・スクールについて、令和7年度は「薩摩中央高校魅力化ビジョン」に関する委員・教職員・生徒による熟議の開催や、学校が育てたい資質・能力について熟議を重ねた。結果、組織的・継続的な連携・協働体制が一層構築し、目指すべきビジョンの達成に向かって、地域の人材や資源等を生かした学校運営【地域とともにある学校としてのマネジメント力】が推進した。

今後、教職員や生徒の意見を取り入れながら、学校が育てたい資質・能力や課題について熟議を重ね、具体的な教育活動の企画や実施が重要である。

地域とともにある学校の実現に向けたコミュニティ・スクールの「見える化」ポートフォリオ【薩摩中央高等学校_令和7年度】

| | |
|--------|-------------|
| 地域 | 鹿児島県薩摩郡さつま町 |
| 学校名 | 薩摩中央高等学校 |
| 児童・生徒数 | 218名 |

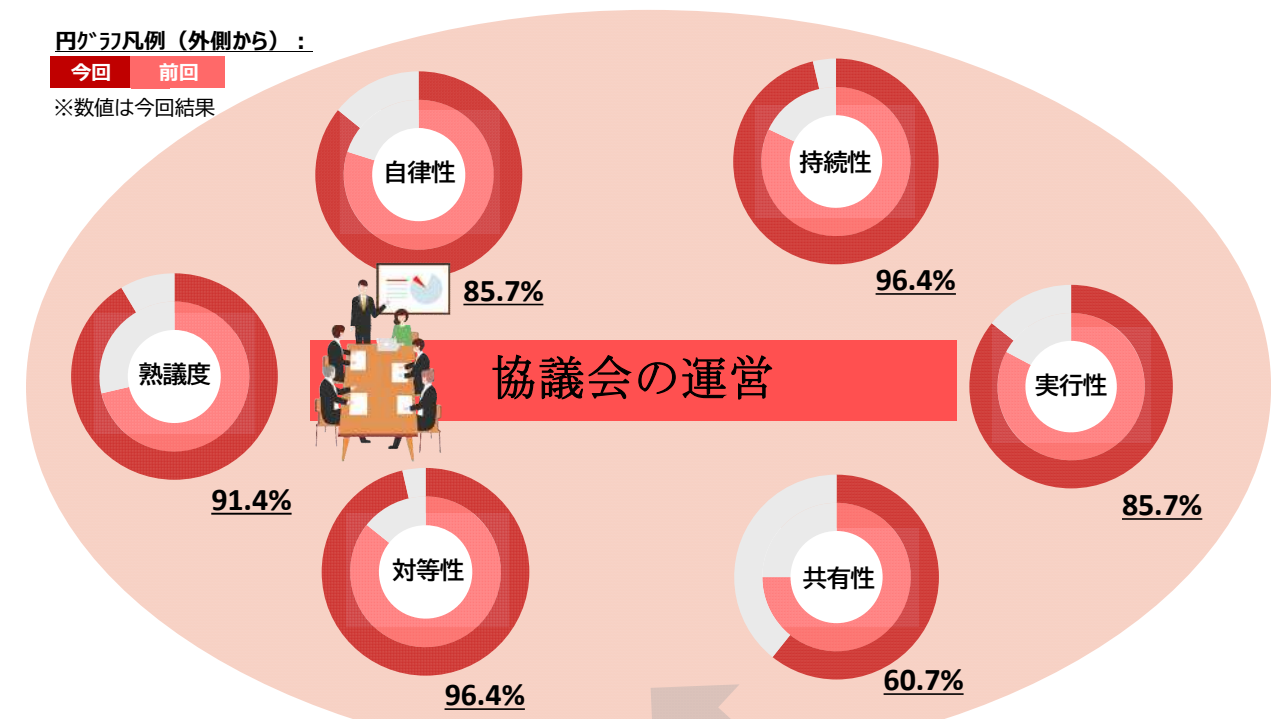
| | | |
|---------|-------------|----|
| 回答者数 | | |
| 学校運営協議会 | 7名 教職員 | 4名 |
| 生徒 | 116名 (任意調査) | |

地域の特性・概要 (自由入力)
 人口1.8万人。過疎化、少子高齢化が進む中、町は助成制度を設けるなど、学校へ様々な支援をしている。

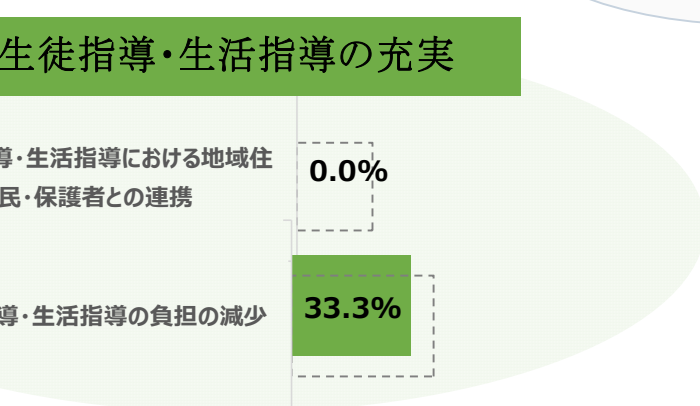
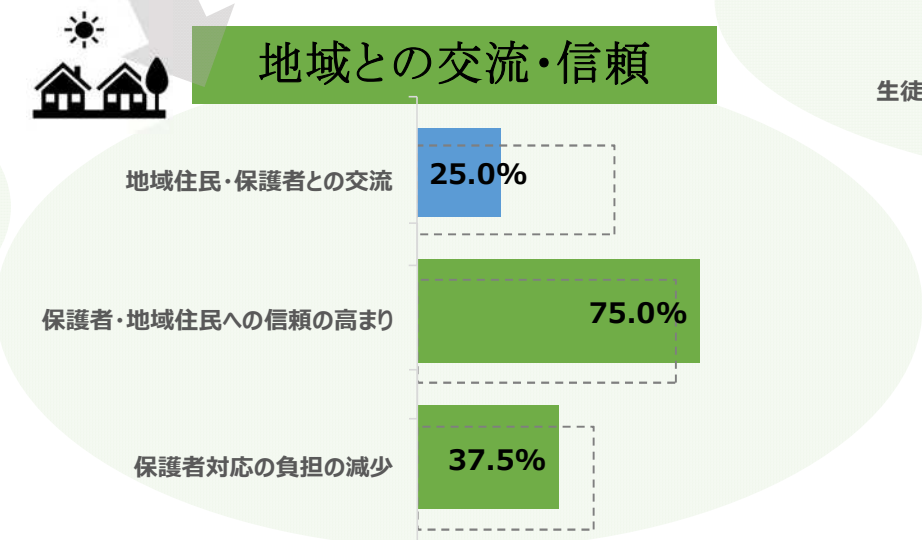
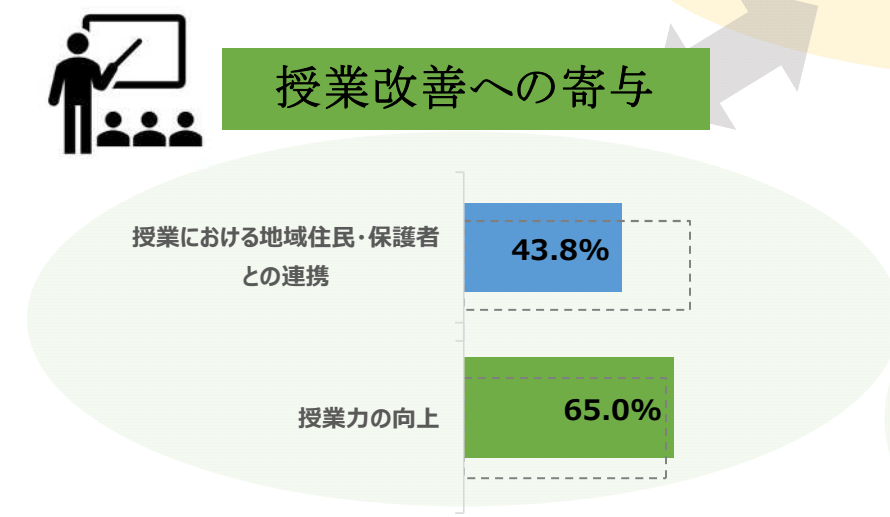
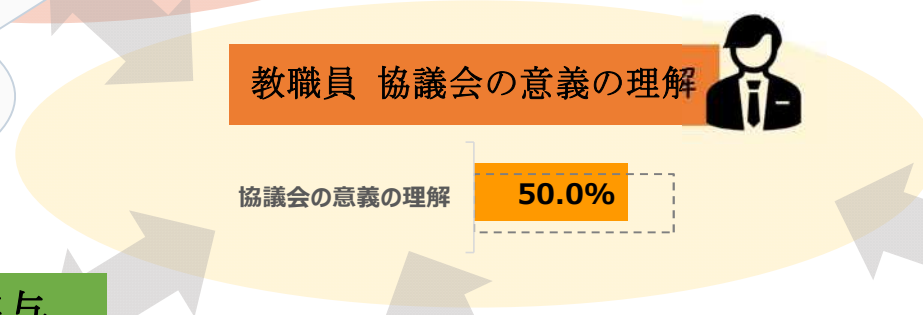
CS設置のねらい (自由入力)
 学校と地域住民の連携・協働を進め、一体となって子どもたちの成長を支えていく体制を構築する。

棒グラフの凡例
 — 実線：今回の結果
 - - - 点線：前回の結果

円グラフ凡例 (外側から) :
 今回 前回
 ※数値は今回結果

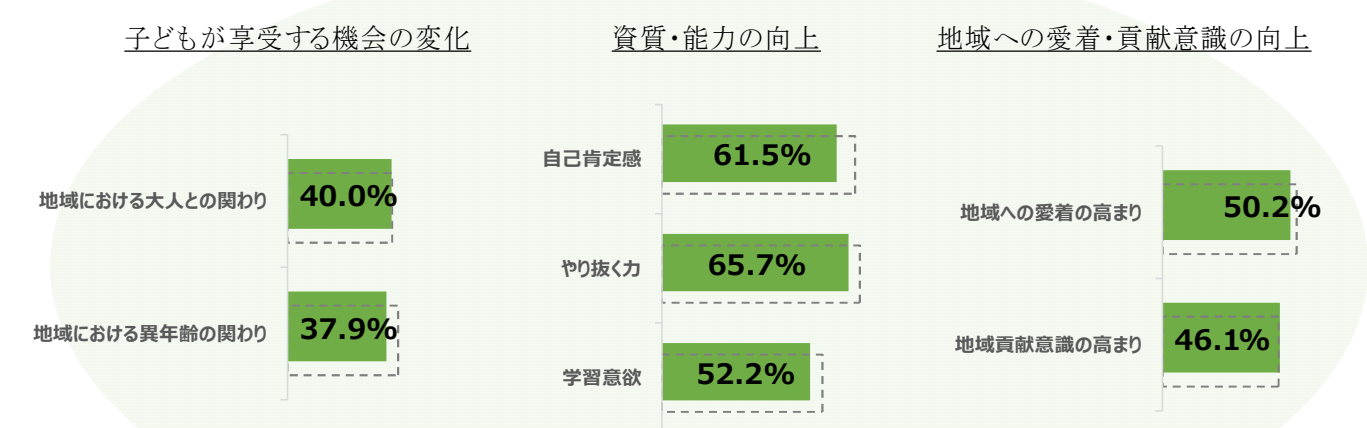


協議会運営における住民側の主体性の高さ、協議会の情報開示・共有の高さと、教職員の意義の理解の高さに相関関係が確認されています



教職員のCSへの意義の理解の高さと、教職員の活動、成果実感に関する指標の高さに相関関係が確認されています

子どもへの効果



CS設置のねらいと関連付けながら、子ども調査(任意)の結果を確認し、取組の振り返りにお役立てください。

協議会の運営【A領域】

| | | 自校の結果 | | 結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) | |
|------------|--|--------|---------|-------|--------|--------|--------------------------|--------------------|
| | | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | | 推移のグラフ 割合(%)の推移 |
| | | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | | |
| 自律性 | | 85.7% | 5.7pt | | 80.0% | 85.7% | 自律性 | |
| 協 2 | 学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員による議論を行う | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 3 | 学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある | 100.0% | 0.0pt | | 100.0% | 100.0% | | |
| 協 4 | 教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある | 28.6% | 0.0pt | | 28.6% | 28.6% | | |
| 協 5 | 教職員は、協議会からの意見を重視し、それをふまえた学校運営を行っている | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 6 | 協議会やその構成メンバーにも、よりよい学校づくりをすすめる自覚がある | 100.0% | 0.0pt | | 100.0% | 100.0% | | |
| 対等性 | | 96.4% | 10.7pt | | 85.7% | 96.4% | 対等性 | |
| 協 7 | 地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 8 | 子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある | 100.0% | 28.6pt | | 71.4% | 100.0% | | |
| 協 9 | 議論は、特定の人の意見に左右されることはない | 85.7% | 0.0pt | | 85.7% | 85.7% | | |
| 協 10 | 協議会内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある | 100.0% | 0.0pt | | 100.0% | 100.0% | | |
| 持続性 | | 96.4% | 14.3pt | | 82.1% | 96.4% | 持続性 | |
| 協 11 | 学校運営協議会の役割や運営について、委員全員で確認し合っている | 100.0% | 28.6pt | | 71.4% | 100.0% | | |
| 協 12 | 学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている | 85.7% | 0.0pt | | 85.7% | 85.7% | | |
| 協 13 | 校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 14 | 学校運営協議会の運営方針・方法について、振り返り・見直しを行う機会がある | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 熟議度 | | 91.4% | 20.0pt | | 71.4% | 91.4% | 熟議度 | |
| 協 15 | 協議会で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることがある | 100.0% | 28.6pt | | 71.4% | 100.0% | | |
| 協 16 | 学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 17 | 当初の議案が、議論によって変更・改善されることがある | 85.7% | 28.6pt | | 57.1% | 85.7% | | |
| 協 18 | 協議会で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある | 85.7% | 14.3pt | | 71.4% | 85.7% | | |
| 協 19 | 学校評価などの各種の評価結果を活かした改善について、議論が行われている | 85.7% | 14.3pt | | 71.4% | 85.7% | | |
| 実行性 | | 85.7% | 2.9pt | | 82.9% | 85.7% | 実行性 | |
| 協 20 | 学校長の主導で、協議会の内容が有意義になったと感じることがある | 100.0% | 14.3pt | | 85.7% | 100.0% | | |
| 協 21 | 協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている | 100.0% | 0.0pt | | 100.0% | 100.0% | | |
| 協 22 | 議論の結果、各主体（学校・保護者・地域の大人等）が実行すべきこと・役割分担が明確になっている | 57.1% | -28.6pt | | 85.7% | 57.1% | | |
| 協 23 | 協議会で議論した活動に自ら参加したり、活動の一部を担ったりすることがある | 85.7% | 14.3pt | | 71.4% | 85.7% | | |
| 協 24 | 協議された事項の実行にあたり、教職員は期待される役割を果たしている | 85.7% | 14.3pt | | 71.4% | 85.7% | | |
| 共有性 | | 60.7% | -14.3pt | | 75.0% | 60.7% | 共有性 | |
| 協 25 | 地域住民や保護者は、誰が協議会委員になっているか知っている | 14.3% | -14.3pt | | 28.6% | 14.3% | | |
| 協 26 | 学校教育目標や学校運営の基本方針が確認しやすい形で共有されており、内容は理解している | 100.0% | 0.0pt | | 100.0% | 100.0% | | |
| 協 27 | 学校の問題や悩みは、協議会委員の中で共有されている | 71.4% | -14.3pt | | 85.7% | 71.4% | | |
| 協 28 | 協議会での協議内容について、十分な情報発信が行われている | 57.1% | -28.6pt | | 85.7% | 57.1% | | |

教職員の意識 【B領域】

| | | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|------------------|----------------------------------|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | 推移のグラフ 割合(%)の推移 |
| 協議会の意義の理解 | | 50.0% | -15.0pt | | 65.0% | 50.0% | |
| 教 2 | 協議会での協議・決定内容の情報については、定期的に確認している | 50.0% | -31.3pt | | 81.3% | 50.0% | |
| 教 3 | 協議会での協議・決定事項に関心がある | 75.0% | -6.3pt | | 81.3% | 75.0% | |
| 教 4 | 学校での活動について、協議会委員に相談したいと思うことがある | 0.0% | -25.0pt | | 25.0% | 0.0% | |
| 教 5 | 協議会で決定されたことやその活動は、学校にとって意味のあることだ | 75.0% | 0.0pt | | 75.0% | 75.0% | |
| 教 6 | 協議会での協議によって、何か役割が与えられたら果したい | 50.0% | -12.5pt | | 62.5% | 50.0% | |

教職員への効果（授業改善）

| | | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|---------------------------------------|---------------------------------------|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | 推移のグラフ 割合(%)の推移 |
| 授業における地域住民・保護者との連携【C領域：教職員の活動】 | | 43.8% | -18.8pt | | 62.5% | 43.8% | |
| 教 7 | 地域との協働だからできる授業がある | 75.0% | 6.3pt | | 68.8% | 75.0% | |
| 教 8 | 授業で、保護者や地域住民に授業支援やゲストティーチャーをお願いする | 25.0% | -31.3pt | | 56.3% | 25.0% | |
| 教 9 | 授業づくりに、保護者や地域住民が参画・支援することがある | 25.0% | -25.0pt | | 50.0% | 25.0% | |
| 教 10 | 教室内の授業で、地域の題材や地域の課題を扱う | 50.0% | -25.0pt | | 75.0% | 50.0% | |
| 授業力の向上【D領域：教職員への効果】 | | 65.0% | 2.5pt | | 62.5% | 65.0% | |
| 教 17 | 授業に活用できる地域資源や地域課題を理解している | 75.0% | 6.3pt | | 68.8% | 75.0% | |
| 教 18 | 授業のねらいに応じて、効果的に地域資源等を活用した授業を行うことができる | 75.0% | 12.5pt | | 62.5% | 75.0% | |
| 教 19 | 授業は、学校外にもサポートしてくれる人がある | 75.0% | 12.5pt | | 62.5% | 75.0% | |
| 教 20 | 地域の人と協力することで、授業の内容の向上につながったことがある | 50.0% | -12.5pt | | 62.5% | 50.0% | |
| 教 21 | 地域の人とのふれあいや地域での活動によって、勉強が好きになった子どもがいる | 50.0% | -6.3pt | | 56.3% | 50.0% | |

教職員への効果（生徒指導の充実）

| | | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|--|--|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | 推移のグラフ 割合(%)の推移 |
| 生徒指導・生活指導における地域住民・保護者との連携【C領域：教職員の活動】 | | 0.0% | -18.8pt | | 18.8% | 0.0% | |
| 教 11 | 子どもの生徒指導・生活指導において、必要があれば地域住民と協力してフォローする | 0.0% | -18.8pt | | 18.8% | 0.0% | |
| 教 12 | 地域住民から得られた情報で、早期に子どもの悩みに向き合えたことがある | 0.0% | -18.8pt | | 18.8% | 0.0% | |
| 生徒指導・生活指導の負担の減少【D領域：教職員への効果】 | | 33.3% | -6.3pt | | 39.6% | 33.3% | |
| 教 22 | 子どもの生徒指導・生活指導について、学校外にも手伝ってくれる人がある | 25.0% | -12.5pt | | 37.5% | 25.0% | |
| 教 23 | 地域の人や保護者が子どもの話を聞いてくれたり、アドバイスをしてくれたりすることが、生活指導の負担軽減につながっている | 0.0% | -37.5pt | | 37.5% | 0.0% | |
| 教 24 | 地域の人と協力することで、子どもの問題行動の解決につながっている | 75.0% | 31.3pt | | 43.8% | 75.0% | |

教職員への効果（地域との交流・信頼）

| | | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|--------------------------------------|---------------------------------|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | 推移のグラフ 割合(%)の推移 |
| 地域住民・保護者との交流【C領域：教職員の活動】 | | 25.0% | -34.4pt | | 59.4% | 25.0% | |
| 教 13 | 保護者や地域住民とは、気軽に会話できる | 25.0% | -43.8pt | | 68.8% | 25.0% | |
| 教 14 | 学校での活動について、保護者や地域住民に相談する | 25.0% | -25.0pt | | 50.0% | 25.0% | |
| 保護者・地域住民への信頼の高まり【D領域：教職員への効果】 | | 75.0% | 6.3pt | | 68.8% | 75.0% | |
| 教 15 | 保護者や地域の方は、学校の課題や問題点を理解してくれている | 75.0% | 6.3pt | | 68.8% | 75.0% | |
| 教 16 | 保護者や地域の方は、学校にとって有意義な意見・提案をしてくれる | 75.0% | 6.3pt | | 68.8% | 75.0% | |
| 保護者対応の負担の減少【D領域：教職員への効果】 | | 37.5% | -9.4pt | | 46.9% | 37.5% | |
| 教 25 | 保護者や地域住民の学校への批判・苦情は少ない | 0.0% | -56.3pt | | 56.3% | 0.0% | |
| 教 26 | 保護者や地域住民対応の負担は大きくない | 75.0% | 37.5pt | | 37.5% | 75.0% | |

子どもが享受する機会の変化【D領域】

| | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|-------------------------------------|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | |
| 地域における大人との関わり | 40.0% | -0.1pt | | 40.1% | 40.0% | 地域における大人との関わり |
| 子 3 学校の中で、先生以外の大人を見かける | 69.0% | 20.0pt | | 49.0% | 69.0% | |
| 子 4 地域（さつま町）の人に褒めてもらう | 44.0% | -0.9pt | | 44.9% | 44.0% | 地域における異年齢の関わり |
| 子 5 地域（さつま町）のお祭りなど地域の行事やイベントに参加する | 42.2% | -12.2pt | | 54.4% | 42.2% | |
| 子 6 地域（さつま町）の人と一緒に、地域の行事の企画や準備に取り組む | 23.3% | -8.0pt | | 31.3% | 23.3% | |
| 子 7 学校や家の近所で、地域（さつま町）の人のお手伝いをする | 21.6% | 0.5pt | | 21.1% | 21.6% | |
| 地域における異年齢の関わり | 37.9% | -4.6pt | | 42.5% | 37.9% | |
| 子 8 地域（さつま町）の小学校や中学校の児童・生徒と交流する | 25.0% | -11.1pt | | 36.1% | 25.0% | |
| 子 9 自校の違う学年の人と交流する | 50.9% | 1.9pt | | 49.0% | 50.9% | |

子ども：資質・能力の向上【D領域】

| | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|---|-------|---------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | |
| 自己肯定感 | 61.5% | -6.5pt | | 68.0% | 61.5% | 自己肯定感 |
| 子 10 今の自分を気に入っている | 62.9% | 1.0pt | | 61.9% | 62.9% | |
| 子 11 自分はやればできる人間だと思う | 65.5% | -7.3pt | | 72.8% | 65.5% | |
| 子 12 学校の勉強は、よく分かる | 56.0% | -13.4pt | | 69.4% | 56.0% | やり抜く力 |
| やり抜く力 | 65.7% | -4.0pt | | 69.7% | 65.7% | |
| 子 13 学校や地域（さつま町）でふれあう大人の活動や様子をみて、自分も頑張ろうと思うことがある | 57.8% | -10.9pt | | 68.7% | 57.8% | |
| 子 14 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している | 56.0% | -4.5pt | | 60.5% | 56.0% | |
| 子 15 やると決めたことは、粘り強く、最後まであきらめずにやり通す | 69.8% | -2.3pt | | 72.1% | 69.8% | |
| 子 16 困ったことがあっても、どうにかできると思う | 79.3% | 1.8pt | | 77.6% | 79.3% | 学習意欲 |
| 学習意欲 | 52.2% | -4.3pt | | 56.5% | 52.2% | |
| 子 17 学校で習ったことや地域（さつま町）の人に教えてもらったことについて、もっと詳しく知りたいし、調べたい | 40.5% | -3.0pt | | 43.5% | 40.5% | |
| 子 18 新しいことをつぎつぎ学びたい | 63.8% | -5.6pt | | 69.4% | 63.8% | |

子ども：地域への愛着・貢献意識の向上【D領域】

| | 自校の結果 | | 自校の結果の推移 | | | メモ・備考欄 (結果を見ての感想・考察等) |
|--|-------|--------|----------|-------|-------|--------------------------|
| | 今回 | 前回比 | 前々回 | 前回 | 今回 | |
| | 割合(%) | 差(pt) | 割合(%) | 割合(%) | 割合(%) | |
| 地域への愛着の高まり | 50.2% | -2.5pt | | 52.7% | 50.2% | 地域への愛着の高まり |
| 子 19 地域（さつま町）の歴史や行事、地域（さつま町）で起きた問題に興味がある | 43.1% | 11.1pt | | 32.0% | 43.1% | |
| 子 20 地域（さつま町）の中での活動や、地域（さつま町）の人と交流することは楽しい | 62.1% | -6.0pt | | 68.0% | 62.1% | |
| 子 21 地域（さつま町）が好きである | 68.1% | -5.4pt | | 73.5% | 68.1% | |
| 子 22 将来も地域（さつま町）に関わりたい | 27.6% | -9.8pt | | 37.4% | 27.6% | |
| 地域貢献意識の高まり | 46.1% | 0.5pt | | 45.6% | 46.1% | 地域貢献意識の高まり |
| 子 23 自分も地域（さつま町）の人の役に立ちたい | 54.3% | -4.9pt | | 59.2% | 54.3% | |
| 子 24 地域（さつま町）のために自分には何ができるか考えることがある | 37.9% | 6.0pt | | 32.0% | 37.9% | |